



「としよかんライオン」

幡代小学校 一年一組 鈴木 周

ぼくのいえのちかくにとしよかんがあります。ゆっくり本
がよめるので、ぼくはとしよかんが大すきでいつも行ってい
ます。

「としよかんライオン」にでてくるライオンは、ぼくとお
なじで、としよかんが大すきです。ライオンはふだんは「し
ずかにする」というきまりをまもります。でも二かいだけき
まりをまもれませんでした。

一かいめは、おはなしかいがおわったときです。きつとラ
イオンは本がすきなので、もっとよんでもらいたかったのだ
とおもいます。

二かいめは、なかよしのかんちょうさんをたすけるため
で、やさしくてゆうきのあるライオンだとおもいました。

でもライオンは、きまりをまもれなかったので、でていっ

てしまいました。つぎの日もそのつぎの日もきませんでした。
みんなは、さみしいとおもいました。そこでとしよかんの人
は、

「うるさくしてはいけない。ただしともだちをたすけるた
めなど、ちゃんとしたりゆうがあるときはべつ」

というあたらしいきまりをつくってくれました。ライオンも
としよかんの人もやさしくておもいやりがあるなあとおもい
ました。

ぼくがいつもいくとしよかんにもライオンがきてほしいな
あとおもいました。ライオンというあたらしいともだちがで
きるのでワクワクします。もしライオンがとしよかんにきて
くれたら、手のとどかないところの本をとるときに、せなか
にのせてもらったり、いっしょにねそべってのんびりしたり
できるので、もっともっととしよかんがすきになるとおもい
ます。